

2012 年 IEEE 関西支部
総会資料

2012 年 2 月 14 日
IEEE 関西支部

総会資料目次

Program

I.	2012 年関西支部役員・理事	p.2
II.	2012 年 Kansai Chapter 役員	p.5
III.	2011 年活動報告	p.7
IV.	関西支部会員数	p.18
V.	2012 年活動計画	p.20
VI.	2011 年会計報告	p.25
VII.	2012 年予算案	p.26
VIII.	受賞者	p.27
IX.	IEEE KANSAI SECTION BYLAWS	p.28

2012年 IEEE 関西支部総会

1. 日時： 2012年2月14日（火）15時00分～17時00分
2. 場所： 住友ビルディング 12階 中会議室
〒541-0041 大阪市中央区北浜 4-5-33
3. 総会スケジュール
 1. 支部長挨拶
 2. 役員・理事紹介
 3. 2011年活動報告および2012年事業計画
 4. Chapter 役員および活動紹介
 5. 2011年会計報告および2012年予算案
 6. IEEE 関西支部 GOLD 賞授賞式
 7. IEEE 関西支部学生研究奨励賞授賞式
 8. IEEE 関西支部メダル授賞式
<休憩>
 9. IEEE 関西支部 新 Fellow 紹介及び研究紹介
 10. 閉会の挨拶

I 2012年関西支部役員・理事

Section Officers

Chair:	片桐 滋	(同志社大学)
Vice Chair:	矢野 厚	(住友電気工業)
Secretary / Treasurer:	村瀬 亨	(住友電気工業)

理事

MDC Chair:	小倉 武	(立命館大学)
NC Chair:	山本 裕	(京都大学)
SAC Chair:	梶川 嘉延	(関西大学)
TPC Chair:	中谷 智広	(日本電信電話)
AC Chair:	楠本 真二	(大阪大学)
COC Chair:	尾上 孝雄	(大阪大学)

理事 (Past Officers, Past Committee Chairs)

Past Chair:	中村 行宏	(立命館大学)
Past Vice Chair:	櫛木 好明	(パナソニック)
Past Secretary/Treasurer:	上田 大助	(パナソニック)
Past MDC Chair	山内 寛紀	(立命館大学)
Past TPC Chair	山田 武士	(日本電信電話)
Past AC Chair	菊野 亨	(大阪大学)
Past COC Chair	山本 幹	(関西大学)

事務局

事務局 :	平野 和夫	(住友電気工業)
-------	-------	----------

Committee Officers

a. Membership Development Committee :

Chair :	小倉 武	(立命館大学)
Secretary :	熊木 武志	(立命館大学)
Member :	長岡 宏	(オムロン)
	平田 嘉裕	(住友電気工業)
	勝山 豊	(大阪府大)
	大仲 清司	(パナソニック)
	村松 純	(日本電信電話)
	宮本 雅之	(シャープ)
	佐々木 鉄雄	(関西電力)
	貝原 俊也	(神戸大学)
	太田 快人	(京都大学)
	田邊 信二	(三菱電機)
	岡 育夫	(大阪市立大学)
	有本 和民	(ルネサス エレクトロニクス)

木村 啓明	(ローム)
棚橋 成夫	(京セラ)
(後任調整中)	(国際電気通信基礎技術研究所)
加藤 貴敏	(村田製作所)

b. Nominations Committee :

Chair:	山本 裕	(京都大学)
Member:	池田 雅夫	(大阪大学)
	植村 俊亮	(奈良産業大学)
	酒井 英昭	(京都大学)
	三瓶 政一	(大阪大学)
	寺西 信一	(パナソニック)
	和田 修	(神戸大学)

c. Student Activities Committee :

Chair:	梶川 嘉延	(関西大学)
Member:	宮本 伸一	(大阪大学)
	久門 尚史	(京都大学)
	永田 真	(神戸大学)
	芳賀 博英	(同志社大学)
	井上 美智子	(奈良先端科学技術大学院大学)
	小橋 昌司	(兵庫県立大学)
	泉 知論	(立命館大学)
	花田 良子	(関西大学)

d. Technical Program Committee :

Chair :	中谷 智広	(日本電信電話)
Vice-chair :	尾形 哲也	(京都大学)
Secretary :	青木 直明	(パナソニック)

e. Awards Committee :

Chair :	楠本 真二	(大阪大学)
Member :	飯田 元	(奈良先端科学技術大学院大学)
	太田 能	(神戸大学)
	大橋 正治	(大阪府立大学)
	岡 育生	(大阪市立大学)
	黒江 康明	(京都工芸繊維大学)
	土屋 達弘	(大阪大学)
	中村 匡秀	(神戸大学)
	野口 拓	(立命館大学)
	山田 晃久	(シャープ)
	太田 正哉	(大阪府立大学)
	榎木 哲夫	(京都大学)
	杉原 浩平	(三菱電機)
	藤川 和利	(奈良先端科学技術大学院大学)

三好 誠司 (関西大学)
村田 英一 (京都大学)

f. Chapter Operations Committee :

Chair: 尾上 孝雄 (大阪大学)
Member: 浅田 稔 (大阪大学)
飯塚 邦彦 (シャープ)
石尾 秀樹 (大阪工業大学)
石川 容平 (京都大学)
潮 俊光 (大阪大学)
真鍋 武嗣 (大阪府立大学)
酒井 英昭 (京都大学)
杉本 謙二 (奈良先端科学技術大学院大学)
高橋 明 (シャープ)
野田 進 (京都大学)
坂本 直史 (ルネサス ソリューションズ)
安田 岳雄 (日本アイ・ビー・エム)

II 2012 年 Kansai Chapter 役員

EDS (Electron Devices Society) Kansai Chapter :

Chair:	高橋 明	(シャープ)
Vice Chair:	浦岡 行治	(奈良先端科学技術大学院大学)
Secretary:	小瀧 浩	(シャープ)
Treasurer:	前元 利彦	(大阪工業大学)

SSCS (Solid State Circuits Society) Kansai Chapter :

Chair:	飯塚 邦彦	(シャープ)
Vice Chair:	藤島 実	(広島大学)
Secretary:	満仲 健	(シャープ)
Treasurer:	杉村 武昭	(ルネサス エレクトロニクス)

CASS (Circuits and Systems Society) Kansai Chapter :

Chair:	潮 俊光	(大阪大学)
Vice Chair:	沼 昌宏	(神戸大学)
Secretary:	井上 馨	(同志社大学)
Treasurer:	和田 昌浩	(甲南大学)

APS (Antennas and Propagation Society) Kansai Chapter :

Chair:	真鍋 武嗣	(大阪府立大学)
Vice Chair:	前田 忠彦	(立命館大学)
Secretary:	塩見 英久	(大阪大学)
Treasurer:	山本 温	(パナソニック)

COMS (Communications Society) Kansai Chapter :

Chair:	石尾 秀樹	(大阪工業大学)
Vice Chair:	熊澤 宏之	(三菱電機)
Secretary/Treasurer:	岡田 実	(奈良先端科学技術大学院大学)

CS (Computer Society) Kansai Chapter :

Chair:	安田 岳雄	(日本アイ・ビー・エム)
Vice Chair:	越智 裕之	(京都大学)
Vice Chair:	富山 宏之	(立命館大学)
Secretary:	中島 雅逸	(パナソニック)
Treasurer:	泉 知論	(立命館大学)

MTTS (Microwave Theory and Techniques Society) Kansai Chapter :

Chair:	石川 容平	(京都大学)
Vice Chair:	石崎 俊雄	(龍谷大学)
Secretary:	堀井 康史	(関西大学)
Secretary:	上田 哲也	(京都工芸繊維大学)
Treasurer:	北沢 祥一	(国際電気通信基礎技術研究所)

PHO (Photonics Society (formerly LEOS)) Kansai Chapter :

Chair:	野田 進	(京都大学)
Vice Chair:	伊東 一良	(大阪大学)
Secretary:	杉立 厚志	(三菱電機)
Treasurer:	加藤 友章	(日本電気)

SPS (Signal Processing Society) Kansai Chapter :

Chair:	酒井 英昭	(京都大学)
Vice Chair:	澤田 宏	(日本電信電話)
Secretary:	戸田 智基	(奈良先端科学技術大学院大学)
Treasurer:	林 和則	(京都大学)

CES (Consumer Electronics Society) Kansai Chapter :

Chair:	坂本 直史	(ルネサス ソリューションズ)
Vice Chair:	松田 守正	(三菱電機)
Secretary:	長谷 智弘	(龍谷大学)
Treasurer:	長谷 智弘	(龍谷大学)

CSS (Control Systems Society) Kansai Chapter :

Chair:	杉本 謙二	(奈良先端科学技術大学院大学)
Vice Chair:	萩原 朋道	(京都大学)
Secretary:	平田 健太郎	(奈良先端科学技術大学院大学)
Treasurer:	蛭原 義雄	(京都大学)

III 2011 年 活動報告

1. 総会

2011 年 2 月 16 日 (水) に大阪大学中之島センター7 階セミナー室において、2011 年総会を開催した。GOLD 賞授賞式、学生研究奨励賞授賞式、2011 年新 Fellow 昇格者 1 名の紹介を行い、新 Fellow の代理の方による記念講演等を実施した。

参加者：52 名

2. 理事会

第 1 回理事会 1 月 18 日 京都テルサ 出席者：16 名

・2011 年総会について

第 2 回理事会 2 月 16 日 大阪大学中之島センター 出席者：13 名

・2011 年総会について・本部報告について

第 3 回理事会 6 月 21 日 住友ビルディング 出席者：11 名

・R10 総会報告 ・2011 年第 1 回 Japan Council 理事会報告、活動状況、TTJ

第 4 回理事会 9 月 8 日 住友ビルディング 出席者：9 名

・IEEE 関西支部 2011 年活動中間報告 ・Sections Congress 参加報告
・Japan Council との関係について ・関西支部受賞応募募集について
・homepage 改訂報告

第 5 回理事会 12 月 21 日 住友ビルディング 出席者：16 名

・GOLD 賞、学生研究奨励賞について ・受賞者選定
・各 Committee 活動状況報告 ・2011 年活動報告 ・2012 年活動計画
・2011 会計状況報告/2012 予算案
・Japan Council 理事会報告

3. 関西支部主催講演会

Technical Program Committee の企画により以下の関西支部主催講演会を実施した。詳細は 4-d 項に示す。

関西支部主催第 62 回技術講演会

日時：2011 年 6 月 6 日 (月) 17:00~17:30

題目：「IEEE -- Advancing Technology for Humanity」

関西支部主催第 63 回技術講演会

日時：2011 年 9 月 8 日 (木) 14:00~17:00

題目：「音を消す技術の最前線」

関西支部主催第 64 回技術講演会

日時：2011 年 9 月 21 日 (水) 13:30~16:40

題目：「技術開発の真髄に迫る 革新技術への挑戦から国際標準化まで」

関西支部主催第 65 回技術講演会

日時：2011 年 9 月 29 日 (木) 14:00~16:40

題目：「企業における最先端技術への挑戦 血糖センサと化合物半導体」

関西支部主催第 66 回技術講演会

日時：2011 年 12 月 12 日 (月) 13:30~16:20

題目：「発達科学とロボットを用いた社会学研究」

4. 各 Committee 活動

a. Membership Development Committee

本年度は、4月、11月と MDC & SAC Joint Meetnig を開催した。各委員が所属している組織において、IEEE 活動の利点を広く周知することで、新卒者の学生会員から正会員への移行をスムーズに行わせるとともに、Senior Member への Upgrade を推進することを活動の中心とした。また、SAC と連携し、大学院生を中心とした学生会員の増加に力を入れた。結果として、

- (1) 12月20日現在、会員数は2,316名となった(IV 関西支部会員数参照)。昨年度同時期(2,205名)と比べて、大きく上回る会員の確保を実現した。
- (2) 各企業、大学における、既卒社員に対する入会勧誘と新卒者の会員移行に関する取り組みの資料として、委員所属組織ごとの会員登録状況リストを2回送付した(MDC, SAC 共)。
- (3) 6月末に renew を促すためのメールをメーリングリストリストを通して送付した。
- (4) MDC の企業委員のメンバーの交代(3名)と、事業の再編等による委員の退任があった。

b. Nominations Committee

- (1) 昨年と同様に、支部役員の方々と連携をとり、Senior Member の拡大をはじめとする、正会員や学生会員の拡大活動を行った。
- (2) 2011年1月1日付けで以下の1名が新 Fellow に昇格された。杉浦 博明氏(三菱電機)。関西支部からの推薦候補では0名であった。
- (3) 2011年3月1日締め切りの2012年 Fellow Nomination に際し、関西支部から5名の Fellow 推薦を行なった。
- (4) 2013年 Fellow Nomination に関して、関西支部内の現 Fellow に対し新 Fellow の推薦を依頼し、関西支部からの推薦者を決定することとした。また、Senior Member の方々へ Fellow 制度の案内を行い、昇格への関心の醸成を行った。推薦依頼があった方々に手続き情報をお送りし、関西支部からの Fellow 推薦準備を開始した。
- (5) Fellow 推薦のための手引きを関西支部ホームページに公開した。

c. Student Activities Committee

SAC 委員会では、昨年に引き続き、学生会員の増強、学生会員の活動支援、等の活動を行ってきた。

(1) 既存6大学(大阪大学、京都大学、立命館大学、奈良先端科学技術大学院大学、兵庫県立大学、関西大学)の Student Branch を中心に、学生会員の増強、学生会員の活動支援、対外活動、Student Branch 間の情報交換の促進、等の活動を行った。また、同志社大学において Student Branch の設立に向けて検討が行われた。

(2) Student Branch による自主的な活動としては、昨年までと同様に6大学合同で関西支部 Student Branch 交流会を12月10日に京都大学にて企画、開催した。また、立命館大学 IEEE Student Branch で、例年開催している English Presentation Competition を10月7日に開催し、関西支部の他の Student Branch から参加者を得て、22件の発表、22名の参加者を得た。優

秀発表者に IEEE 関西支部 Student Activities Committee から表彰状を授与した。

(3) 11月11日～12日に熊本大学において開催された IEEE 学生ブランチリーダーシップトレーニングワークショップに12名の学生を派遣した。

(4) Membership Development Committee と Student Activities Committee と合同で委員会を開催(4月、10月)。連携して会員の増強、GOLD 会員、女性会員を含めた活動支援、等の活動を行った。

(5) Award Committee と連携して IEEE 関西支部学生研究奨励賞を企画し、審査を行った。

d. Technical Program Committee

	日時	場所	講演者	参加者数 (IEEE 会員参加者)	共催・協賛組織名
第62回	2011年 6月6日	京都大学工学部3号館講義室N1 (3号館北棟1F)	Dr. Gordon Day (IEEE President-Elect)	32(23)	IEEE student branch at Kyoto University
第63回	2011年 9月8日	関西大学千里山キャンパス 第四学舎 3号館 4階 3402教室	Prof. Sen Maw Kuo (Northern Illinois University 教授) 牧野 昭二 氏 (筑波大学教授 IEEE フェロー)	86(44)	関西大学学術フロンティアセンター IEEE Signal Processing Society Kansai Chapter IEEE Student Branch of Kansai University 騒音制御工学会 アクティブコントロール分科会
第64回	2011年 9月21日	キャンパスプラザ 京都 4階 第3講義室	井上 弘士 氏 (九州大学 准教授) 田邊 信二 氏 (三菱電機(株) 人材開発センター 技術経営教室 教室長)	52(22)	IEEE CS Kansai Chapter
第65回	2011年 9月29日	住友ビルディング 12階中会議室	林 秀樹 氏 (住友電気工業(株) フェロー 情報通信・システム事業本部 技師長 IEEE フェロー) 南海 史朗 氏 (パナソニックヘルスケア(株) 技術企画室)	44(16)	AC・Net(情報通信技術研究交流会)
第66回	2011年 12月12日	京都大学医学部 芝蘭会館別館 研修室	明和政子 先生 (京都大学大学院 准教授) 長井志江 先生 (大阪大学大学院 准教授)	20(9)	日本ロボット学会ロボティックサイエンス研究専門委員会

e. Awards Committee

2010年度に引き続き2011年「IEEE 関西支部 GOLD 賞」の募集を行った。本賞は2008年度から、学生会員、大学や研究所の若手研究員、企業の若手会員の3種類の表彰を行っている。今年度は10月28日に応募を締め切って、全体で4名の応募者があった。当委員会による選定の後、2名の受賞者を12月21日の支部理事会で決定した。

また、2011年「IEEE 関西支部学生研究奨励賞」の審査を、今年度も継続して SAC と合同で審査委員会を設立して行った。今年度は10月19日に応募を締め切ったところ、35名の応募者があった。当委員会による選定の後、12月21日の支部理事会で12名の受賞者を決定した。

なお、2011年 GOLD 賞の表彰楯の作成費と2011年学生研究奨励賞の賞状作成費ならびに副賞については Japan Council Section 支援費からの支援によっている。

f. **Chapter Operations Committee**

2007年度から発足した Chapter Operations Committee では、支部内の Chapter で活動状況について横断的に情報共有を行い、各 Chapter の活動をさらに活性化させることを目標としている。具体的には、COC 委員会における各 Chapter 活動報告による情報共有、Distinguished Lecturer 制度の説明、Japan Council の支部 Chapter 支援費の説明などをを行っている。また、IEEE 本部へ行う報告や Chapter 維持条件を説明し、定常活動の維持について各 Chapter の意識向上を図っている。さらに、今後関西支部で新設を予定する Chapter に対し、その新設に必要な情報の提供、既存 Chapter との情報交換などを通じ、新設に向けた支援を行っている。今年度は、CSS (Control Systems Society) Kansai Chapter の新設を申請し、承認された。この結果、関西支部は11の Chapters を擁している。

5. Kansai Chapter活動

a. **EDS (Electron Devices Society) Kansai Chapter**

1月25日には、IEDM2010 報告会を開催し、同会議の参加者に化合物関連及びシリコンデバイス/プロセス関連の技術情報についてご講演頂いた。

5月19日～20日には、IEEE EDS 関西チャプター主催の電子デバイス国際会議である“2011 International Meeting for Future of Electron Devices, Kansai (IMFEDK 2011)”を関西大学100周年記念会館にて開催した。学生や若手研究者を中心に135名の方々に参加頂き、5件の基調講演、1件の招待講演、7件の一般講演及び42件のポスター講演（ショートプレゼンテーション付き）を実施した。また、本会議に先立って「高効率量子ドットソーラーセルの原理及び最新の技術動向」と「太陽光発電の現状と太陽電池の将来技術」に関する Tutorial 講演会を行い、若手エンジニアや学生の方々に多数参加頂いた。

7月14日には、DL 講演会及び技術講演会を開催し、小田俊理教授（東京工業大学）にシリコン量子ドットのエレクトロニクス及びフォトニクスへの応用に関して、大村泰久教授（関西大学）に飲酒運転防止車載センサー開発の取り組みに関して、それぞれご講演頂いた。

10月21日には、技術講演会としてはすでに定例となった関西コロキウム電子デバイスワークショップを大阪大学中之島センターにて開催した。当日は37名の研究者および学生に参加頂き、国際レベルの研究成果を日本語にて発表して頂き、活発な討論が行われた。

この他、EDS News Letter に活動成果を投稿し、2011年4月、7月、10月の各号に記事が掲載された。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/eds/>

b. SSCS (Solid State Circuits Society) Kansai Chapter

2011年5月23日、大阪にてSSCS技術講演会を主催した。“IEEE International Solid-State Circuit Conference(ISSCC) 2011 報告会”と題して、ISSCC 2010 プログラム副委員長の日高様 (ルネサスエレクトロニクス) の同会議概要ご報告を皮切りに、10名の発表者にご講演頂いた。この技術講演会では40名の参加者を集めて、活発な質疑応答が行われた。

さらに、2011年11月21日にも同じく大阪でSSCS技術講演会を主催した。“IEEE SSCS Distinguished Lecturer Tours”招聘講演会を企画し、Distinguished Lecturers メンバーから4名の著名な講師をお招きして、最新技術の動向についてご講演頂いた。この技術講演会では53名を集めて活発な質疑応答が行われた。なお、技術講演会の詳細は下記 URL に掲載している。

<http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/sscs/>

この他、LSI とシステムのワークショップ (5月)、VDEC デザイナーズフォーラム (5月)、集積回路研究会 (4月、6月、7月、10月)、シリコンアナログ RF 研究会 (8月、11月)、Integrated Circuits and Devices in Vietnam (8月)、VLSI 夏の学校 (8月) に協賛した。特に5月のLSI とシステムのワークショップでは若手研究者のポスター発表に IEEE SSCS Kansai Chapter Academic Research Award を贈呈し、VDEC デザイナーズフォーラムでは協賛金により若手LSI 設計者に情報交換の場を提供した。このように技術者及び若手設計者が多数集まるイベントに協賛することで、活動のアピールと会員獲得に努めた。

c. CASS (Circuits and Systems Society) Kansai Chapter

2011年は合計10件の技術講演会などを実施した。具体的には次のとおりである。

- (1) 2011年1月5日に大阪大学 豊中キャンパスで開催された、技術講演会に協賛した。Michigan Technological University の Prof. Shiyan Hu に「New Advanced Optimization Frameworks in VLSI Physical Design」と題してご講演いただき、22名の参加があった。
- (2) 2011年2月2日に京都大学 吉田キャンパスで開催された、技術講演会に協賛した。University of California at Berkeley の Prof. Jaijeet Roychowdhury に「Using Phase Macromodels to Simulate Systems of Coupled Biological Oscillators」と題したご講演をいただき、20名の参加があった。
- (3) 2011年2月9日に大阪大学 豊中キャンパスにおいて、技術講演会「ハイブリッドシステムとその応用」を開催した。京都大学 東俊一 先生と、東京大学 合原一幸 先生にご講演いただき、30名の参加者を得て、活発なディスカッションを行うことができた。
- (4) 2011年6月13日に大阪大学豊中キャンパスで開催された技術講演会に協賛した。IBM T.J. Watson Research の Dr. Aditya Bansa に「Forecasting BTI Impact in Circuits」と題したご講演をいただき、25名の参加者があった。
- (5) 2011年7月13日に大阪科学技術センターで開催された平成23年度計測自動制御学会関西支部講習会に協賛した。4件の講演が行われ、29名が参加した。

- (6) 2011年8月1日～2日に淡路夢舞台国際会議場にて開催された第24回路とシステムワークショップに協賛した。92件の発表がなされ、延べ184名の参加があった。
- (7) 2011年9月4日～7日に神戸市産業振興センターで開催された2011 International Symposium on Nonlinear Theory and its Applicationsに協賛した。185件の発表と延べ232名の参加があった。
- (8) 2011年9月8日に甲南大学において、Distinguished Lecturers Program 技術講演会を開催した。Hong Kong Polytechnic University の Prof. Chi K. Tse に「Applications of Complex Networks Research: From Science, Engineering, Arts to Finance」と題して講演いただいた。43名の参加者を集め、盛況な講演会を行うことができた。
- (9) 2011年10月25日に神戸大学において、技術講演会「次世代スパコン「京」の開発とその応用」を開催した。205名に参加いただき2件の発表が行われ、世界一の技術について有益な技術・研究交流を行うことができた。
- (10) 2011年11月28日～12月2日に京都大学で開催された IUTAM Symposium on 50 Years of Chaos: Applied and Theoretical に協賛した。

以上、最新技術動向に関する技術講演会の開催と、参加者の交流を通じて、活動のアピールと会員の獲得に努めた。この他、2月9日に役員会を実施し、随時メールにて計画を練っている。なお、技術講演会の詳細は下記の URL に掲載している。

<http://www-ise2.ist.osaka-u.ac.jp/cas/>

d. APS (Antennas and Propagation Society) Kansai Chapter

6月24日にキャンパスポート大阪にて、The 3rd IEEE AP-S Kansai Chapter Young Engineer Technical Meeting を主催した。四方博之先生（関西大）、金子めぐみ先生（京大）を招き学生の英語発表の指導を行った。8件の発表があり、参加者総数13名であった。

9月8日に電子情報通信学会アンテナ・伝播研究会で、IEEE AP-S 特別講演を、AP-S Kansai Chapter 主催で開催した。当日は古濱 洋治先生（元通信総合研究所長）に「遍歴一通信とリモートセンシングの狭間でー」のご講演をいただき、58名の参加者を得て活発な議論を行うことができた。

11月11日にはキャンパスポート大阪にて、次世代の超高速ワイヤレス通信システムを支えるアンテナ・伝搬技術ワークショップを主催した。澤谷 邦男先生（東北大学）に「無線通信の高度化とアンテナ技術」についてご講演いただき、参加者総数は67名であった。

12月17日には京都大学において、関西アンテナ伝播若手技術交流会を IEEE MTT-SKansai Chapter と共催で開催した。関西電機メーカー等の若手技術者が大学院生を対象に実際の研究開発活動の体験を講演し、討論した。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/aps/>

e. COMS (Communications Society) Kansai Chapter

2011年8月8日に技術講演会を奈良先端科学技術大学院大学において開催した。講演会では、「ソフトウェア無線機の作成」と題して、奈良先端科学技術大学院大学の岡田実、石黒剛大、Ziji Ma の各氏からソフトウェア無線のベースとなる変復調理論および組込み信号処理プログラミングの解説を実際の

デバイスを動作させながら行った。講演会では、6名の参加者を集めて、活発な議論が行われ、貴重な技術交流の場を持つことができた。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/coms/>

f. CS (Computer Society) Kansai Chapter

4月27日に、松井俊浩氏(産業技術総合研究所 情報通信エレクトロニクス分野 副研究統括)を招いて、“産業技術総合研究所のロボット研究”と題して講演会を主催した。ヒューマノイドロボットや移動サービスロボット、福祉のための車いすロボットやマニピュレータ、環境を知り、認識する技術、ロボットを安定に制御するための実時間制御システムなど、産総研のロボットや基盤技術について、解説いただいた。さらに、エンタテインメント向きのデモなど約10種類を、ビデオを交えて紹介していただいた。講演会では、50名(IEEE会員:18名)の参加者を集めて活発な質疑応答が行われ、貴重な技術交流の場を持つことができた。

9月21日に、IEEE 関西支部との共催で、井上 弘士氏(九州大学 准教授)を招いて、“3次元積層マイクロプロセッサ ～解決すべき課題と将来展望～”と題して講演会を主催した。マイクロプロセッサの継続的な発展を可能にする新しいアプローチとして注目され、また、3次元方向へ回路を集積することで短い配線長を維持しつつ、回路を大規模化できるといった利点を持つ3次元積層LSIについて技術的観点から解説いただいた。またその中でも特に、マイクロプロセッサとメモリに焦点を当て、3次元積層アーキテクチャの研究動向を紹介すると共に、解決すべき課題を整理し将来展望が紹介された。講演会では、50名(IEEE会員:22名)の参加者を集めて活発な質疑応答がなされ、貴重な技術交流の場を持つことができた。

上記にあるとおり、業界で注目されている最先端技術についての講演会を主催し、関連技術者及び学生を多数集め、活動のアピールと会員獲得に務めた。

技術講演会の詳細は下記のURLに掲載している。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/cs/>

g. MTTs (Microwave Theory and Techniques Society) Kansai Chapter

今年度も4つのミッション(融合的産業の創出、電力ネットワーク要素技術の確立、シームレスな情報通信事業への貢献、融合的学際領域や新産業領域創出に対するプラットフォーム化)、および対応する8つの戦略的ワークショップのカテゴリを決定し、活動を行った。

技術講演会としては、マイクロ波とEMCの接点としてシミュレーション技術に着目し、「EMCワークショップ」を企画・開催(主催)し、2月19日に龍谷大学において和田修己教授(京都大学)、小川晃一教授(富山大学)、半杭英二氏(NEC)、房安浩嗣氏(パナソニック)、市川浩司氏(デンソー)を招いて技術講演を行った。出席者は48名であった。4月16日には上述する戦略的ワークショップとしてマイクロ波応用で新産業を興すための新しい研究開発領域をサーチする目的で、マイクロ波通信システム&デバイス技術より、マイクロ波から光を横断した「マイクロ波デバイス/アンテナ/システムの融合ワークショップ」(主催)を企画、開催し、安川交二教授(大阪工業大学)、榎原晃教授(兵庫県立大学)、原田博司氏(情報通信研究機構)、原晋介教授(大阪市立

大学)を招いて大阪大学にて講演を行い、60名に上る参加者で活発な意見が交わされた。次いで、7月30日には水溶液、有機材料、酸化鉄系粉末材料、誘電体・磁性体材料等のマイクロ波帯における各種特性の測定法や測定結果およびそれら特性の化学反応やデバイス設計への活用事例について「マイクロ波材料・デバイスの反応・設計・測定法のワークショップ」を企画・開催し、竹内和彦氏(産業技術総合研究所), 林幸准教授(東京工業大学), 柳田 祥三名誉教授(大阪大学), 和田修己教授(京都大学), 田村博氏(村田製作所)を招いて龍谷大学にて講演を行い、47名の参加者があった。また、11月19日にはワイヤレスセンシングを実現する集積回路技術, RFID 技術, MEMS 技術や, セキュリティ, 医療ユースとのワイヤレス技術融合の新しい方向性を議論する「マイクロ波センシング技術ワークショップ」(主催)を開催し, 黒田忠広教授(慶応義塾大学), 尾崎太亮氏(日立製作所), 尾林秀一氏(東芝), 小田直樹氏(NEC), 今井正治教授(大阪大学)を招いて同志社大学にて講演をしていただいた。参加者は55名であり, IEEE 会員が40名あった。これら技術講演会は関西におけるマイクロ波分野の主要な企業および大学からの委員で構成される「技術委員会 (Technical Committee)」が中心となって企画運営している。6月25日には Gold Member, Student Member による「若手技術委員会 (WakaTe Committee)」が主体となって企画した「第4回マイクロ波英語発表会」(主催)を開催した。これは学生, および企業入社後数年の若手技術者に対し英語で研究発表する場を与えるもので, 14件の発表があり, そのうち3件を優秀発表者として表彰し, 出席者は42名であった。3名のうち最優秀の発表者に Best Young Presentation Award を授与した。また, MTT-S Japan Chapter, Nagoya Chapter と共催で 2011IEEE MTT-S Japan Young Engineer Award の受賞者選定を行い, 3名が選出され, 12月1日 Microwave Exhibition (MWE)2011 の開催期間中に授賞式を開催した。この賞は, 指定の IEEE 論文誌に掲載された原著論文の筆頭著者でかつ, マイクロ波の理論および技術の分野に貢献のあった38歳以下の若手の研究者を表彰するものである。

一方, 5月には日本で初めての International Microwave Workshop Series(IWMS)を Innovative Wireless Power Transmission: Technologies, Systems, and Applications と題して企画し, おうばくプラザ(京都大学宇治キャンパス)にて開催した。176名の国内外の研究者が参加し, 熱い議論が交わされた。11月10日, 11日には IEEE MTTS 各チャプタ等と共催で Korea-Japan Microwave Conference を九州大学にて開催し, 学生など若手研究者を中心に100名を越える研究者が参加した。また他に, 信学会 MW 研究会や MWP 研究会などへの協賛を行っている。12月17日には「若手技術交流会」を開催した。これは企業の若手技術者4名に, 学生を対象として企業における研究の実態や魅力について講演していただくとともに企業および大学の研究室によるポスター発表を行って, 学生と企業の若手技術者が交流する場を提供する新しい形式の技術交流会である。本年も AP-S Kansai Chapter と合同で開催した。このような会が IEEE 入会の契機となることも狙いとしている。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/mtts/>

h. PHOS (Photonics Society (formerly LEOS)) Kansai Chapter

1月27日に京都大学(桂キャンパス)にて IEEE Photonics Conference 2010 報告会を実施し、「IEEE Photonics Conference2010 報告」(丸田教授 (大阪大

学) を講演いただいた。同会場で電子情報通信学会 LQE、OPE、EMT、PN 各研究会と共催研究会を実施し 54 件の講演が行われた。その他、1 月から 11 月までで計 10 件の Technical meeting を実施し、合計 22 件の講演が行われた。参加者は 30 名から 100 名といずれも盛況であった。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/leos/index.html>

I. SPS (Signal Processing Society) Kansai Chapter

2011 年は IEEE 内外との連携により、2 件の共催講演会を開催した。

まず 8 月 2 日に、IEEE SPS Japan Chapter との共催により、IEEE SPS の Distinguished Lecturer を努めている University of Southern California の Prof. Antonio Ortega に “Seeing the Signals: Applying Signal Processing Tools to Real World Data Analysis Problems” と題して、京都大学にて Distinguished Lecturer 講演を頂いた。信号処理の具体的な応用例について分かり易く説明して頂き、活発な議論が交わされた。本講演会には、関西地区在住の IEEE Signal Processing メンバーや多数の大学院生を含む約 50 名の聴講者が出席し、IEEE Distinguished Lecturer による講演を聴くことが出来る絶好の機会となった。

また、9 月 8 日に、IEEE Kansai Section, IEEE Student Branch of Kansai University, 関西大学学術フロンティアセンター, 騒音制御工学会アクティブコントロール分科会との共催により、“音を消す技術の最前線”をテーマに掲げ、Northern Illinois University の Prof. Sen Maw Kuo と筑波大学の牧野昭二教授 (IEEE fellow) という、音信号処理の研究で功績のある 2 名を招いて、IEEE Kansai Section 第 63 回技術講演会を関西大学千里山キャンパスにて行った。Prof. Sen Maw Kuo からは、“Active Noise Control: Signal Processing Issues, Challenges, and Applications” と題して、アクティブ騒音制御に関して理論面から実環境での応用まで幅広く講演を頂いた。牧野昭二教授からは、“Blind Audio Source Separation Based on Independent Component Analysis” と題して、独立成分分析に基づくブラインド音源分離の原理および分離アルゴリズムに関して直感的に分かり易い講演を頂いた。本講演会には約 90 名が参加し、活発な議論が交わされた。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/sps/>

j. CES (Consumer Electronics Society) Kansai Chapter

長谷前ChairがCE SocietyのVice Presidentに就任され、新国際会議GCCE (Global Conference on Consumer Electrics) を立ち上げた。これから毎年10月にIEEE主催の国際会議として日本で開催し、それに伴い、CE関西がGCCEのホストChapterをつとめることになった

GCCEを進めるにあたり、電子情報通信学会、映像情報メディア学会等との連携を深めている。具体的には映像情報メディア学会のコンシューマエレクトロニクス研究会および情処学会のコンシューマデバイス&システム研究会である。

来年度のGCCEでのプレゼンを東大・坂村P、東京電機大学・安田、慶應大学・副学長・村井純に依頼し快諾された。

2011年10月21日にIEEE Symposium on Consumer Electronics (ISCE2011 6/14-17シンガポール) およびThe 1st IEEE International Conference on Consumer Electronics - Berlin (ICCE-Berlin 2011)の全体報告および日本から

の発表者の講演を実施。湘南工科大学・野中先生およびルネサステクノロジ齋藤氏が発表。また組み込みソフトウェアの最新動向についてルネサスソリューションズの坂本Chairが紹介。出席者数：21名

2011年12月12日に来年度開催される新国際会議GCCE (Global Conference on ConsumerElectrics) の紹介、およびISCEのBP賞の発表を実施した。

2011年3月21日Chapter役員会にて今年度の体制や活動計画に関する打合せを実施した。10月21日には、6月の理事会でGCCEが承認されたため、関西チャプタを中心とした準備委員会発足やGCCEでの優秀発表に対して若手賞を新設することを議論。GCCEでの優秀発表に対して若手賞を申請することになった。第3回は上記Technical Meetingsとして開催する報告会と合わせて実施した。ISCE2011の発表者から若手論文賞の選考会を実施した。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/ces/>

k. CSS (Control Systems Society) Kansai Chapter

当Chapterの設立がIEEE本部により2011年8月8日付けで承認され、関西支部11個目のChapterとなった。関西支部在住のCSS登録会員に設立の報告と役員の可否投票を行い、別表に示す役員4名が選出された。またChapterのホームページを公開した。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/css/index.html>

6. IEEE マイルストーンツアー

2012年5月に開催が決まった Technical Tour Japan に向け JCHC との打ち合わせ等、準備対応を開始した。

7. 協賛会議・後援

・IMFEDK2011 (International Meeting for Future of Electron Devices, Kansai)

日時：2011年5月19日～20日

場所：関西大学 100周年記念会館

・大阪電気通信大学平成23年4月京阪寝屋川市駅 新学舎竣工記念講演会
パナソニック講座「起業工学」

日時：2011年4月15日～7月29日 14回

場所：大阪電気通信大学

8. Region 10 Meeting

2011年3月5日～6日の日程でインドネシアのジョグジャカルタにて開催された Region 10 Meeting には、関西支部より片桐 Chair と村瀬 Secretary が出席した。R10 の活動報告と活動計画、会計報告、予算計画、などの話題が中心であった。特に成長著しい地域における支部活動の一層の活性化が問われる機会であった。2012年は、3月3日(土)～4日(日)にインドのカルクタで開催される。

9. Sections Congress

2011年8月19日～21日の日程でサンフランシスコにて開催された Sections Congress には、関西支部より片桐 Chair が出席した。会議に先立っ

て前回同様に R10 Meeting も開催された。Sections Congress は、IEEE の Regional activity を包括的に理解する機会であり、かつ支部活動を支える具体的な運営ノウハウの講習からツールの講習に至る広範な情報展開がなされた。R10 の急成長に象徴される IEEE の国際的活動の変容に沿った支部サービスの方向性、特に若手会員の育成や顕彰などを通じた技術の広報・普及支援などをさらに強化すべき点を確認した。

10. Technical Tour of Japan

日本の Milestones を巡る Tour が IEEE 本部の Life Member Committee にて承認され、2012/5/20（日）－2012/5/28（月）で計画されている。関西支部地域では 5/20（日）-23（水）の 3 泊 4 日を過ごされる予定であり、対応準備を Japan Council の Historical Committee 主導の下、関西支部としても協議支援してきた。

11. WIE 活動

女性会員間の交流を目的として情報の共有化のため、MDC と SAC の合同ミーティングへ参加する等、MDC、SAC のサポートを得て、WIE 活動を組織化する方向で調整継続中である。

12. 関西支部からの IEEE 本部役職就任

白川先生（兵庫県立大学）が下記の立場となられた
Member, IEEE Honorary Membership Committee
Member, IEEE History Committee

小山先生（奈良先端科学技術大学院大学）が下記の立場となられた
Member, IEEE Admission and Advancement Committee

13. 情報の発信

(1) 関西支部 Web ページ

Japan Council のサーバに設置されている下記ホームページでタイムリーに情報発信した。デザインを 12 年ぶりに一新し、親しみやすく動きのあるホームページへと改訂を進め、9 月 15 日から完全に移行した。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/>

従来、関係大学のサーバ内に点在していた chapter のホームページを関西支部のホームページの下に移設した(SSCS、COMS、CES)。新設の CSS のホームページも設けた。

(2) 電子メールの利用

総会、技術講演会、協賛会議、Fellow 推薦等の案内をタイムリーに、電子メール・関西支部ホームページを用いて広く公告するなど情報発信に努めた。

(3) Newsletter

総会の様子や GOLD 賞、学生研究奨励賞の受賞者紹介をはじめ、関西支部に関する情報を Newsletter 形式で 6 月と 9 月に提供した。

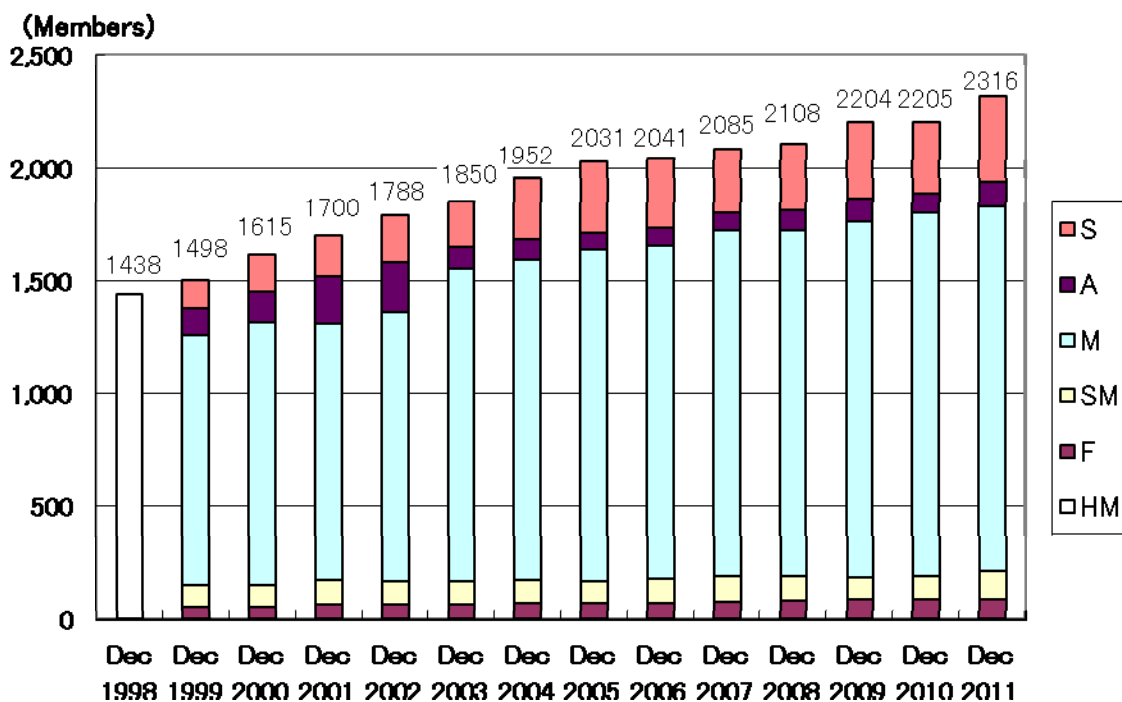
IV 関西支部会員数

1. グレード別会員数

2011.12.20 現在

グレード	Grade Code	会員数
Honorary Member	H	0
Life Fellow	LF	40
Fellow	F	47
Life Senior Member	LS	9
Senior Member	SM	112
Pending Senior Member	PS	0
Life Member	LM	50
Member	M	1,573
Pending Member	PM	0
Life Associate	LA	0
Associate	AM	105
Graduate Student Member	GSM	232
Student Member	StM	148
Total		2,316
Affiliate of an IEEE Society	AF	145

上記集計では、Active 会員のみをカウントし、かつ、他のセクションへの移籍者等は含まない。2011 年 12 月において AR (1 年未満滞納者) は 252 名である。



2. ソサイエティ別会員数

2011/11 現在

ソサイエティ	Code	会員数
Signal Processing	SP 001	158
Broadcast Technology	BT 002	10
Antennas and Propagation	AP 003	70
Circuits and Systems	CAS 004	152
Nuclear and Plasma Science	NPS 005	23
Vehicular Technology	VT 006	37
Reliability	R 007	0
Consumer Electronics	CE 008	35
Instrumentation and Measurement	IM 009	19
Aerospace and Electronic System	AES 010	12
Computational Intelligence	CIS 011	90
Information Theory	IT 012	48
Industrial Electronics	IE 013	50
Engineering Management	EM 014	0
Electron Devices	ED 015	198
Computer	C 016	466
Microwave Theory and Techniques	MTT 017	140
Engineering in Medicine and Biology	EMB 018	77
Communications	COM 019	241
Ultrasonics, Ferroelectronics and Frequency Control	UFFC 20	44
Components, Packaging and Manufacturing Technology	CPMT 21	29
Oceanic Engineering	OE 22	11
Control Systems	CS 23	97
Robotics and Automation	RA 24	122
Education	E 25	14
Professional Communication	PC 26	2
Electromagnetic Compatibility	EMC 27	24
System, Man and Cybernetics	SMC 28	93
Geoscience and Remote Sensing	GRS 29	16
Social Implications of Technology	SIT 30	5
Power Engineering	PE 31	49
Dielectrics and Electrical Insulation	DEI 32	12
Magnetics	MAG 33	36
Industry Applications	IA 34	42
Power Electronics	PEL 35	50
Photonics (formerly Lasers and Electro-Optics)	PHO 36	107
Solid-State Circuits	SSC 37	177
Intelligent Transportation Systems	ITSS 38	12
Product Safety Engineering	PSE 43	4
Total		2,772

V 2012 年 活動計画

1. 総会

2012 年 2 月 14 日 (火) 15:00~17:00 の予定で、2012 年定例総会を実施する。

2. 技術講演会

Technical Program Committee の企画により、講演会を実施する。

3. 理事会

第 1 回理事会 1 月 16 日 住友ビルディング
2012 年活動計画 ・ 2012 年各 Committee の活動計画 ・ 2012 年予算 (案)
第 2 回理事会 2 月 14 日 住友ビルディング
2012 年総会について
2012 年中に、さらに数回の理事会を開催する予定である。

4. 関西支部 GOLD 賞

2011 年に引き続き、Award 受賞候補者を公募し、該当者を表彰する。

5. 関西支部学生研究奨励賞

2011 年に引き続き、学生研究奨励賞受賞候補者を公募し、該当者を表彰する。

6. 関西支部メダル

2011 年に引き続き、関西支部内の新 Senior Member に対して関西支部メダルを授与する。

7. WIE 活動

関西支部内の WIE (Women in Engineering) 活動の活発化を目指す。

8. 各 Committee 活動計画

a. Membership Development Committee

- (ア) 2012 年も、MDC 委員会に参加する機関を通して、IEEE 活動の利点を広く周知し、新卒者の学生会員から正会員への移行をスムーズに行わせるとともに、Senior Member への Upgrade を推進することを活動の中心とする。また、SAC と連携し、大学院生を中心とした学生会員の増加に力を入れる。
- (イ) 各委員の組織における会員状況を定期的に配布する事で、会員数増加のための資料としてもらう。
- (ウ) 定期的に renew を促すためのメールをメーリングリストリストを通して全会員に対して送付する。
- (エ) 会員になるための手続き、及び送金について、日本国内でも、より簡単に行えるような仕組みにするための検討を行っていく。

b. Nominations Committee

2011 年活動と同様に、Membership Development Committee と共同して

Senior Member だけではなく、正員、学生員の拡大をも図る。

2013 年 Fellow Nomination に向けて Fellow 候補者をできるだけ多く推薦する。推薦手順は 2011 年活動と同一の予定。

Senior Member に対し Fellow 制度への関心の醸成を行う。

c. Student Activities Committee

(1) Student Branch の設立

昨年に引き続き、学生会員の勧誘を進め、Student Branch の設立に向け努力を継続する。既設の大阪大学、立命館大学、京都大学、奈良先端科学技術大学院大学、兵庫県立大学、関西大学、各 Branch からの支援で、同志社大学、神戸大学他を対象に Student Branch の設立を目指す。

(2) 学生会員活動の活発化

学生を対象とした講演会、見学会、IEEE 活動説明会を兼ねたイベントを企画し、学生会員の一層の増加を図る。既設の 6 大学 Student Branch の協力により、Student Branch が設置されていない大学に対しても、学生会員への積極的なサービス提供ならびに会員増強のプロモーションを図る。関西支部の 6 大学 Student Branch を中心に、交流会を引き続き開催し、Student Branch 間の交流を深める。

(3) Affinity Group 設立準備への協力

関西支部で検討されている GOLD ならびに WIE の Affinity Group 設立準備に関して、各 Student Branch 所属の GOLD 会員ならびに女性会員と密接に連携しつつ尽力する。

(4) 表彰および研究奨励

2004 年から開始した IEEE 関西支部学生研究奨励賞を (Awards Committee と共同する形で) 継続して企画し、優れた英文論文を発表した学生を表彰し、学生会員の研究を奨励する。また、受賞者が受賞内容について講演する機会を設けて、更なる学生会員の活動の活性化を目指す。

(5) 他支部の学生活動との連携

国内に設立されている他の 8 支部の学生活動との情報交換、連携により関西支部における学生会員活動のより一層の深化を図る。

d. Technical Program Committee

2011 年と同様、講演会の開催を主たる活動とする。2012 年も 5 回以上の企画・開催を目指す。従来から継続している、大阪・京都・神戸地区での講演会の開催、会員からの講演会の提案受付に加え、他団体との共催などにも積極的に取り組む。

e. Awards Committee

2011 年に引き続き、若手会員の増強施策としての「IEEE 関西支部 GOLD 賞」の募集・選定作業、ならびに学生会員の増強施策としての「IEEE 関西支部学生研究奨励賞」募集のより一層の活性化と選定作業を継続して行う。

また、中長期的視野で学生会員や若手会員のさらなる増強をめざして、予算措置を視野に入れながら新企画について検討を行う。

f. Chapter Operations Committee

関西支部内の Chapter で活動状況について横断的に情報共有を行い、各 Chapter の活動をさらに活性化させる。具体的には、Chair の交代発生後あまり時間をおかないよう、年初に COC 委員会を開催し、各 Chapter 活動報告による情報共有、Distinguished Lecturer 制度の説明、Japan Council の支部 Chapter 支援費の説明などを行う。さらに、IEEE 本部へ行う報告や Chapter 維持条件の説明を通して、定常活動の維持について各 Chapter に再確認する。また、これまでに引続き関西支部での Chapter を支援するため、新設に必要な情報の提供、既存 Chapter との情報交換などを行う。

9. Kansai Chapter 活動計画

a. EDS (Electron Devices Society) Kansai Chapter

2012年も前年度に引き続き、国際会議、技術講演会を中心に積極的に活動を展開する。関西発の国際会議である”2012 International Meeting for Future of Electron Devices, Kansai (IMFEDK 2012)”は、SSCS (Solid State Circuits Society) Kansai Chapterとの共催で5月9日～11日に関西大学100周年記念館において開催予定であり、特に関西地区の大学の学生の加入推進のため、Student Poster Paper Sessionのいっそうの充実を図る予定である。

関西に職場住所を持つ企業・大学・公共機関の投稿した論文の中から13件～15件程度の優れた論文を抽出してご講演頂く関西コロキウム電子デバイスワークショップも10月に開催の予定である。また、デバイスの最新研究開発動向を知る上で重要な国際学会であるIEDMの報告会は2012年も1月に大阪大学中之島センターにて開催する予定である。日本国内のDistinguished Lecturerを招いての技術講演会 (DL Meeting) も開催する予定である。

この他、関西地区で開催される各種会議・研究会にも積極的に協賛し、引き続き会員獲得にも努めていく計画である。

b. SSCS (Solid State Circuits Society) Kansai Chapter

2012年も引き続き技術講演会を中心に活動を展開し、学生や若手研究者を主な対象とした質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。6月頃と11月頃に技術講演会を開催し、国内外より著名なVLSI設計関連の技術者を招く予定である。また、関西地区等で開催される各種研究会、ワークショップにも積極的に協賛するとともに、協賛金とAwardを出し、会員獲得に努める計画である。さらに、EDS Kansai Chapterが主催する”International Meeting for Future of Electron Devices, Kansai (IMFEDK)”に共催し、Student paper Awardを新設し、会員獲得に努める計画である。

c. CASS (Circuits and Systems Society) Kansai Chapter

2012年も2011年と同様に、技術講演会を中心に活動し、学生や若手研究者を主な対象とした質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。特に、著名な国外研究者が集まる国際会議やプログラム委員会の開催に合わせて、講演会を開催することを検討する。また、関西地区で開催される各種研究会、ワークショップと共催、あるいは、協賛し、学会活動への貢献と会員獲得に努める計画である。(1月 SICE 関西支部若手研究発表会協賛、6月 研究会共催・技術講演会開催予定、8月 IEICE 回路とシステ

△ WS (淡路) に協賛予定)

d. APS (Antennas and Propagation Society) Kansai Chapter

昨年に引き続き、(1)関西圏におけるアンテナや無線通信技術に携わる若手技術者の育成を通して関西圏の産業振興に寄与すること、および(2)各種研究会・講演会活動を通して関西圏企業・大学の活性化を図ることを基本的なミッションとして活動することを予定している。

e. COMS (Communications Society) Kansai Chapter

技術講演会を中心に活動を展開し、学生および若手研究者を主な対象として質の高い講演および技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。7月および11月頃に技術講演会を開催し、通信関連の若手研究者を中心に講演をいただく予定である。また、引き続き、関西地区等で開催される各種研究会、ワークショップにも積極的に協賛し、会員獲得に努める。

f. CS (Computer Society) Kansai Chapter

2012年も技術講演会を中心に活動し、学生や若手研究者を主な対象とした質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。著名な国外研究者が集まる学会の開催に合わせて、講演会を開催することを検討している。また、関西地区で開催される各種研究会、ワークショップにも積極的に協賛し、会員獲得に努める計画である。

g. MTTS (Microwave Theory and Techniques Society) Kansai Chapter

2012年も策定したミッションに基づいた技術講演会、若手技術者交流会、英語発表会を中心に活動することを予定している。さらにInternational Microwave Workshop Series(IWMS)をInnovative Wireless Power Transmission: Technologies, Systems, and Applicationsと題して企画し、京都にて開催する。また、JapanおよびNagoya ChapterとともにFellowおよびSenior Memberへの昇格候補者支援を引き続き行うとともに関西地区で開催される各種研究会、ワークショップを積極的に共催/協賛し、学会活動への貢献と会員獲得に努める計画である。

h. PHOS (Photonics Society (formerly LEOS)) Kansai Chapter

2012年も、6回以上の技術講演会の企画・開催を目指す。既に2012年度も、1月26日~27日には電子情報通信学会LQE/OPE/EMT/PN合同研究会(大阪大)と併催の形で戸田先生(同志社大)、吉田氏(パナソニック)によるIEEE Photonics Conference 2011報告会が決定している。

i. SPS (Signal Processing Society) Kansai Chapter

2012年も講演会の開催を中心とする活動を展開し、会員の学識、および知見の向上を図る。昨年と同様に、大学教職員が主要なポストを担当することから、学生の行事への参加を積極的に推進し、新しい会員の獲得に努める。Signal Processing Societyは、対象が基礎から応用まで広範囲に及び、特に基礎部門については、異分野との交流により成果を上げられる話題も少なくないことか

ら、これまで以上に他の学会や研究会との積極的な連携を図り、共催、協賛での行事開催に取り組む。

j. CES (Consumer Electronics Society) Kansai Chapter

新国際会議GCCE (Global Conference on Consumer Electrics) をこれから毎年10月にIEEE主催の国際会議として日本で開催し、CES Kansai ChapterがGCCEのホストChapterをつとめることになった。GCCEの認知度を上げ、多くの論文を投稿いただくこと、および準備・運営が本年度の主要な活動予定である。またGCCEを進めるにあたり、電子情報通信学会、映像情報メディア学会等との連携を深めている。この様な活動を通じて、引き続き会員獲得を推進する。

技術講演会はISCEおよびICCE-Berlinの報告会に加え、新たにGCCEの報告会を実施する予定である。これらにより、会員の学識および知見の向上を図り、GCCEの地位向上に努めたい。

若手に対する研究支援活動である若手論文賞は、新国際会議GCCEにて発表した中から選考する若手論文賞を新設するため5件の予算申請をするつもりである。

k. CSS (Control Systems Society) Kansai Chapter

以下のように行事を協賛予定(依頼中を含む)である。

1. 計測自動制御学会関西支部・システム制御情報学会 若手研究発表会 (2012/1/19)
2. 計測自動制御学会制御部門ワークショップ (2012/3/13)
3. 第12回計測自動制御学会制御部門大会 (2012/3/14-16)
4. システム制御情報学会チュートリアル講座2012
5. 第44回システム制御情報学会ストカスティックシステムシンポジウム
6. 第55回自動制御連合講演会

また、上記3の制御部門大会の併設行事として設立記念行事を計画中である。

10. 協賛会議 (2011年11月28日現在予定分)

・IMFEDK2012 (International Meeting for Future of Electron Devices, Kansai)

日時：2012年5月9日(水)～11日(金)

場所：関西大学100周年記念会館

11. Region 10 Meeting

2012年3月3日(土)～4日(日)の日程でインドのカルカッタで開催されるRegion 10 Meetingには、関西支部より例年通り参加を行い、R10の活動報告と活動計画などの情報入手と交換に努める。

12. Technical Tour of Japan

日本のMilestonesを巡るTourが、5月20日(日)～28日(月)で計画されている。関西支部地域では5月20日(日)～23日(水)の3泊4日を過ごされる予定であり、対応準備をJapan CouncilのHistorical Committee主導の下、関西支部として進めていく。

VI 2011年 会計報告

収入の部	予算案@84/\$	実績	(単位：円)	
◆IEEE Entity 間勘定	4,405,124	4,343,432		
・Section Rebate (IEEE 本部より)	1,058,816	1,018,412	\$12,580.75@80.95 円/\$	5/24
・Section Assessment 2011 前期(同上)	3,085,656	2,950,935	\$36,489.87@80.87 円/\$	3/15
・Section Assessment 2011 後期(同上)	50,652	86,411	\$1146.35@75.38 円/\$	10/24
・Sections Congress 参加支援金		58,327	\$770@75.75	9/22
・Student Branch Rebate		19,347	\$244@79.29	6/22
・監査費用支援金	210,000	210,000	本部より返還(外部監査費代)	5/6
◆その他	884,430	804,430		
・Section 支援金(GOLD Award 楯代)	163,800	163,800	JC より (2010 申請分)	2/10
・Section 支援金(学生研究奨励賞代)	352,000	352,000	JC より (2010 申請分)	2/10
・Section 支援金(関西支部メダル代補助)	88,630	88,630	JC より (2010 申請分)	2/10
・Section 支援金(WIE)	100,000	0		
・Section 支援金(Student Branch 支援費)	50,000	50,000	JC より (2010 申請分)	12/22
・懇親会費徴収	130,000	150,000	総会懇親会	2/16
◆利息	0	378	174,39,165	1/18,2/21,8/22
◆2010年からの繰越金	2,026,788	2,026,788		
合計	7,316,342	7,175,028		

Rebate 内訳{\$2,000+\$4×(Fellow, Senior 会員数=189) + \$3×(Member, Associate, Student 会員数=2,007)+\$1.5×(Affiliate 会員数=137) + \$200×(Chapter 数=10)}×1.10+\$300(Chapter Bonus)+\$200(Section Bonus) ※CAS,MTTS,PHOS,SSCS

支出の部	予算案	実績	(単位：円)	
◆IEEE Entity 間勘定	3,344,808	3,256,067		
・Japan Council 拠出金	3,134,808	3,034,346	前期:2,949,435,後期:84,911	3/25,11/4
・Chapter Rebate	210,000	202,374	(\$220×10+\$75×4(CA,MTT,PHO,SSC)@80.95 円/\$)	6/8
・Student Branch Rebate	0	19,347	立命\$116、奈良先\$68,京都\$60@79.29/\$	11/4
◆会合・AWARD 費	1,664,430	1,959,882		
・総会費	330,000	429,205	会場費,懇親会費,資料印刷代	1/17-3/3
・講演会	90,000	167,000	DAYさん懇親会、講師謝礼	6/6,9/6,12/12
・理事会費	200,000	223,372	会場代,飲食代	1/18,2/16,6/21,9/4,12/21
・Committee 会合費	300,000	227,570	MDC/SAC2 回、R10 参加	3/4,4/28,10/28
・GOLD 賞費	163,800	163,800	楯代	2/16
・学生研究奨励賞	352,000	377,658	賞金(12人),賞状代\$218.12@80.95	2/16,5/24
・支部メダル費	88,630	88,630	造幣局	1/6
・Student Branch 支援費	40,000	56,820	立命館大 EPC	10/7
・WIE 支援費	100,000	0		
・Sections Congress 参加費		225,827	旅費、宿泊費	8/18
◆事務経費	790,500	829,182		
・外部監査費	210,000	210,000	本部からの返金で相殺	4/20
・事務用品費	2,000	0		
・旅費	10,000	37,130	学生研究奨励賞、DAYさん講演会交通費補助	2/16,6/6
・通信費	22,000	27,652	郵送費、宅急便等	
・HP 作成外部委託費	556,500	554,400		10/4
◆雑費	20,000	18,989	為替手数料, 振込手数料等	
◆2012年への繰越	1,486,604	1,110,908		
合計	7,316,342	7,175,028		

VII 2012年 予算案

収入の部

(単位：円)

◆IEEE Entity 間勘定	4,103,384	
・ Section Rebate (IEEE 本部より)	984,895	\$12,790.85
・ Section Assessment 2012 前期 (同上)	2,809,720	\$36,489.87 2011 実績
・ Section Assessment 2012 後期 (同上)	88,269	\$1,146.35 2011 実績
・ 監査費用支援金	220,500	本部より返還(外部監査費代)
◆その他	883,200	
・ Section 支援金 (GOLD Award 楯代)	163,800	JC より(2011 申請分)(3 個)
・ Section 支援金 (学生研究奨励賞代)	352,000	JC より(2011 申請分)(11 名)
・ Section 支援金 (関西支部メダル代補助)	87,400	JC より(2011 申請分)(10 個)
・ Section 支援金 (WIE)	100,000	JC より(講演会等)
・ Section 支援金 (Student Branch 支援費)	50,000	
・ 懇親会費徴収	130,000	総会懇親会
◆2011年からの繰越金	1,110,908	
合 計	6,097,492	

77 円/\$として計算

Rebate 内訳 { \$2,000 + \$4 × (Fellow, Senior 会員数 = 208) + \$3 × (Member, Associate, Student 会員数 = 2,108) + \$1.5 × (Affiliate 会員数 = 145) + \$200 × (Chapter 数 = 9) } × 1.10 + \$300 (Chapter Bonus) + \$200 (Section Bonus) ※会員数は、
2011.12 月 20 日現在 SCS, CASS, MTT, PHOS

支出の部

(単位：円)

◆IEEE Entity 間勘定	3,070,532	
・ Japan Council 拠出金	2,894,972	\$37,636 (2011 年実績) - 1500 円 × 2
・ Chapter Rebate	175,560	(\$220 × 9 + \$75 × 4) = \$2,280
◆会合・AWARD 費	1,619,200	
・ 総会費	310,000	会場費, 資料代など
・ 講演会	90,000	3 名分
・ 理事会費	200,000	会場代, 飲食代 6 回
・ Committee 会合費	250,000	MDC/SAC 2 回, COC 等
・ GOLD Award 費	163,800	楯代
・ 学生研究奨励費	368,000	賞金, 賞状代
・ 支部メダル費	87,400	造幣局(10 個)
・ Student Branch 支援費	50,000	立命館大 EPC
・ WIE 支援費	100,000	講演会等
◆事務経費	262,500	
・ 外部監査費	220,500	本部支援費で充当
・ 事務用品費	2,000	ファイル等
・ 旅費	20,000	学生研究奨励賞交通費補助
・ 通信費	20,000	郵送費, 宅急便等
◆雑費	25,000	為替手数料, 振込手数料など
◆2013年への繰越	1,120,260	
合 計	6,097,492	

77 円/\$として計算

VIII 受賞者

IEEE 関西支部 GOLD 賞受賞者

計 2 名 (アルファベット順、敬称略)

梅田 英和	(パナソニック)
山本 高至	(京都大学)

IEEE 関西支部学生研究奨励賞受賞者

計 12 名 (アルファベット順、敬称略)

大道 哲二	(大阪大学)
福原 始	(京都大学)
林 浩平	(奈良先端大)
樋口 雄大	(大阪大学)
小玉 崇宏	(大阪大学)
久保木 猛	(京都大学)
Islam A.K.H Mahfuzul	(京都大学)
三宅 裕樹	(京都大学)
西尾 理志	(京都大学)
Md. Nooruzzama	(大阪府立大学)
单 麟	(京都大学)
宅野 嗣大	(京都大学)

IEEE 関西支部 メダル受賞者

計 12 名 (アルファベット順、敬称略)

安藤 陽	(村田製作所)
萩原 朋道	(京都大学)
橋本 昌宜	(大阪大学)
梶川 嘉延	(関西大学)
木村 睦	(龍谷大学)
栗林 稔	(神戸大学)
中村 弘幸	(パナソニック エレクトロニクスデバイス)
中根 和彦	(三菱電機)
二川 清	(大阪大学)
坂部 行雄	(元 村田製作所、東京工業大学)
佐々 誠彦	(大阪工業大学)
渡辺 博文	(リコー)

IEEE 関西支部 新 Fellow

計 2 名 (アルファベット順、敬称略)

西尾 章治郎	(大阪大学)
奥乃 博	(京都大学)

IEEE KANSAI SECTION BYLAWS

In all instances, the Institute of Electrical and Electronics Engineers (IEEE) Bylaws, Constitution, Policy and Procedures manual, and the Regional Activities Board (RAB) Bylaws and Operations Manual will prevail when there is a conflict between these documents and Section Bylaws.

ARTICLE I --- Name and Territory

Section 1

This organization shall be known as the Kansai Section of the IEEE.

Section 2

The territory of the Kansai Section, as approved by RAB, includes the following:

Osaka, Kyoto, Hyogo, Nara, Shiga, and Wakayama prefectures, JAPAN

(The districts with the postal codes starting with 52 through 67 inclusive.)

ARTICLE II --- Officers

Section 1

The elected officers of the Kansai Section shall be the 4 Executive officers: Chair, Vice Chair, Secretary & Treasurer. The offices of the Secretary and Treasurer may be combined.

Section 2

The terms of office of the elected officers shall be for 2 years.

Section 3

Terms of office will begin on January 1 but, in any case, the outgoing officers will continue until their successors are duly elected and take office. The consecutive period of service shall not exceed two years.

Section 4

Any vacancy occurring during the year shall be filled by a majority vote of the Section Executive Committee.

ARTICLE III --- Standing Committee

Section 1

The Standing Committees of the Section will be as follows:

- Membership Development Committee
- Nominations Committee
- Student Activities Committee
- Technical Program Committee
- Awards Committee
- Chapter Operations Committee

Section 2

The Chair of the Standing Committees will be appointed by the Section Chair with the approval of the Section Executive Committee, and their terms will expire on the end-of-term date of the Section Chair.

Section 3

Each Committee Chair will appoint his/her Committee members, with the approval of the Section

Executive Committee, and their terms will expire on the end-of-term date of the Committee end-of-term date of the Committee Chairs'.

Section 4

Duties of the Standing Committees will be as generally described in the IEEE Section Operations Guide.

ARTICLE IV --- Management

Section 1

The management of the Section shall be by the Section Executive Committee which shall consist of the elected officers, the Past Section Chair and the following:

Standing Committee Chairs
representatives of Chapters,
such other members appointed by the Section Executive Committee,
and such other members appointed by the Section Chairman.

The number of voting members elected must be at least one greater than those appointed.

Section 2

A majority of the Section Executive Committee shall constitute a quorum, provided that delegates elected by the Section membership are at least one greater in number than delegates appointed to the Committee.

Section 3

A majority of the Section Executive Committee present shall be necessary in the conduct of its business.

Section 4

Meetings of the Section Executive Committee ordinarily will be held at least twice a year and will be called by the Section Chair or by a request of an three members of the Section Executive Committee.

Section 5

The fiscal year of the Section shall be the calendar year.

ARTICLE V --- Nomination and Election of Officers

Section 1

A nominating Committee consisting of three members, not then officers of the Section, shall be appointed by the Section Chair with the approval of the Section Executive Committee.

Section 2

The nominations of the Nominating Committee will be announced to the Section membership and, following this, a minimum of 28 days allowed for additional nominations by petition. To be valid, the petition must be signed by 2% or more voting membership.

Section 3

If only one nomination is made for each office, the election will be made at the Annual Meeting. If additional nominations are made, election will be by ballot, mailed to the membership with the vote counted by a Tellers Committee appointed by the Section Chair.

Section 4

The timetable for this procedure is as follows:

Appointment of Nominating Committee:	by August 31
Announcement of Nominations:	by September 30
Close nominations by petition:	by October 31

Hold election:

by November 30

Section 5

A plurality of the votes cast shall be necessary for election.

ARTICLE VI --- Business Meeting

Section 1

In order to transact business at a Section meeting, at least 3members must be present to constitute a quorum.

ARTICLE VII --- Finances

Section 1

All expenditures of Section funds must be approved by Section Treasurer or Chair.

Section 2

Without prior authorization of the IEEE Executive Committee, Section funds can be used only for normal operations of the Section.

Section 3

The treasurer shall be authorized to draw funds as approved by the Section Executive Committee.

ARTICLE VIII --- Amendments

Section 1

Proposals for amendments to these Bylaws may originate in the Section Executive Committee or by a petition signed by 20% or more voting members.

Section 2

Amendments to or revocation of these Bylaws shall be in accordance with the IEEE Bylaws, RAB Bylaws and RAB Operations Manual.

(memo)

2012 年 IEEE 関西支部連絡先

〒554-0024 大阪市此花区島屋 1-1-3
住友電気工業株式会社 研究統轄部内
IEEE 関西支部事務局

e-mail : sec-kansai@ieee-jp.org

Web URL : <http://ewh.ieee.org/r10/kansai/>
<http://www.ieee-jp.org/section/kansai/>

